

美術科学習指導案

日 時 平成20年9月12日(金) 2校時
学 級 盛岡市立下橋中学校 1年1組
(男子13名、女子15名、計28名)
授業者 佐伯 祝

1 題材名 構成における美の秩序(要素)

2 題材について

本題材は、全ての表現及び鑑賞活動の基本となる美的感覚(=感性)を育てるとともに、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力の能力を養うことをねらいとするものである。また、学習指導要領の〔共通事項〕として新設された指導内容(「A表現」及び「B鑑賞」)の指導を通して、ア.形や色彩、材料、光りなどの性質やそれがもたらす感情を理解すること。イ.形や色彩などの特徴などを基に、対象のイメージをとらえること。)を具現化し、生涯にわたって、美術を愛好するための基礎的基本的能力を育てるために設定した題材でもある。具体的には、構成における美の秩序(要素)について理解を深めるとともに、それらの秩序を活用しながら、自らの感性を働かせて画面を分割し、彩色をする学習である。実際の学習場面では、生活を美しく豊かにするための形や色によるコミュニケーションのあり方や1学期の写生会における事前学習(自分の思いや意図を表現するために必要な構図の工夫)、色彩の学習(色の三要素、色の三原色など基礎知識の習得と白から黒への明度段階作りや三原色を使った12色相環作り)等をよりどころに、自らが作り出す画面の分割と配置による構成の上に、配色の効果を考えながら、ポスターカラーを使って彩色するものである。

今回この題材で身に付けた力は、「自然物からの構成」(1学年)や「ポスター制作」(2学年)、「十五歳の自画像」(3学年)等の題材にもつながる大切な学習であると考えられる。

3 生徒について

入学時の美術に関するアンケートの結果、本学級の生徒の7割以上が「デザインすること」に興味関心を持っている。しかしながら、色彩の学習での授業観察や作品作りを見る限りにおいて、その興味関心には、ばらつきがあり、色の性質(色の三要素や色の三原色)に関する基礎的知識の理解が十分とはいえない生徒や制作時において、用具や道具の扱いが不慣れた生徒、集中力に問題を抱える生徒も少なくない。

こうした学級の実態をふまえ、生徒一人ひとりが本題材に主体的に取り組めるよう、自らの感性を働かせて構成の美しさを積極的に追究する場面(教材とのかかわり合い)を設定し、これまでの生活体験や既習事項をよりどころに、構成の美の秩序についての学習を深めていきたい。また、本題材で扱うシンメトリー・リピテーション・グラデーション等の用語は、今後の学習活動の場面のみならず、日常生活の中でも積極的に使っていくことができるよう指導していきたい。

4 指導の構想

(1) 研究との関わりから

中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会の「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」(平成19年11月)の中で、「感性を働かせて思考・判断し、創意工夫をしながら表現したり作品を鑑賞したりするという一連のプロセスを働かせる力や生涯にわたって美術に親しみ、生活や社会に生かしたり、豊かにしたりする態度が育てること」を美術科の課題として挙げている。これを受けて、中央審議会の答申(平成20年1月)の中で「創造することの楽しさを感じるとともに、思考・判断し、表現するなどの造形的な創造活動の基礎的な能力を育てること、生活の中の造形や美術の働き、美術文化に関心をもって、生涯にわたり主体的にかかわっていく態度をはぐむことを重視する」ことを基本方針として、学習指導要領が改訂(平成20年3月)された。

このことから本校美術科では、個々の生徒が美術を通して身に付けた力を基に、生活の中で活用しながら自己実現していく姿の中に、生きる力を糧とする「豊かな学び」があると考え、その姿の実現のために「自らの感性を働かせて思考・判断し、創意工夫する力を育てるための指導の工夫」という研究主題を掲げ、授業実践を行ってきた。

(2) 社会的背景・生徒の実態から

美術は他の教科と違って才能が大きく左右する教科だから、才能がある人や好きな人が学習すればよい。将来芸術家にならない人には関係のない教科である。日常生活の中で使わないのだから、あえて教科として学習する必要はないと思われる面がある。

しかし、生徒を含む多くの人達は、色や形を意識して髪型や服装などのファッションを楽しんだり、室内環境の美化を目的にカーテンや壁紙を選んだり、自らの感性を働かせながら美的選択や美的な活動を行っている。また、会社や企業に目を向ければ、販売戦略として、商品の展示や包装・表示や宣伝の仕方を工夫するなど美術の働きを活用しているのである。

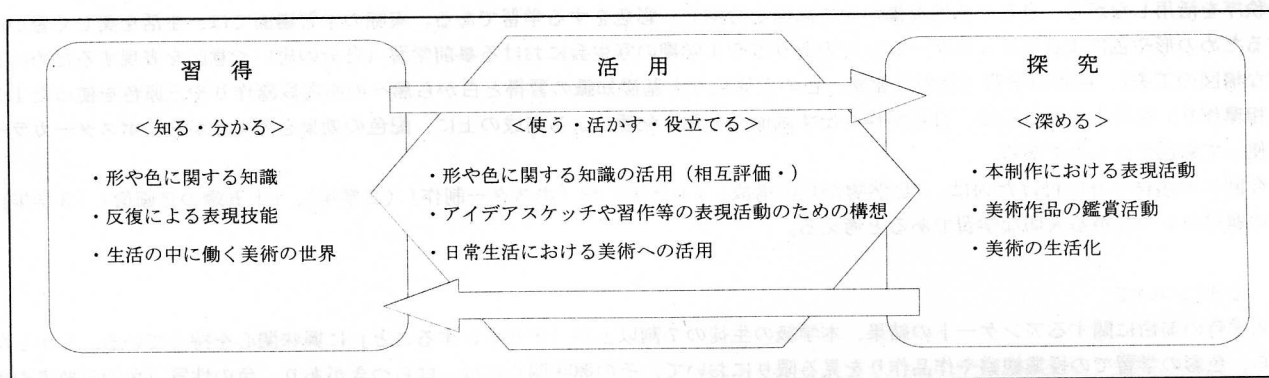
これらの事実から、日々の生活や仕事を美しく心豊かにする行為の中に美術は息づいていることをあらためて気づかせるとともに、生涯にわたって美術を愛好するために必要とされる基礎的基本的な能力を授業を通してしっかりと身に付けさせる必要があると考える。

5 指導計画・評価計画

(1) 題材全体の評価規準

題材の目標	美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	表現の能力	鑑賞の能力
構成における美の秩序(要素)について理解を深めるとともに、それらの要素を活用しながら、自らの感性を働かせて画面を構成し、彩色することができる。	生活を豊かに演出している形や色の働き(構成における美の秩序)について興味関心をもちながら、理解に努めることができる。	目的や条件などを基に、自らの感性を働かせて、美しいと感じる構成の表現について構想を練ることができる。	形や色彩などの表し方を身に付け、意図に応じて材料や用具の生かし方などを考え、創意工夫して表現することができる。	構成における美の秩序(要素)を通して、造形的なよさや美しさ、美と機能性の調和、生活における美術の働きなどを感じ取ることができる。

(2) 「習得」「活用」「探究」の学びの流れ



(3) 題材の指導計画

時間	おもな学習内容	学習目標	評価規準
第1時 1.0 (本時)	これまでの生活経験や既習事項をよりどころに、美しいと感じる構成の中に隠された秘密(構成における美の秩序)を解き明かし、自らの表現に活かす。	<ul style="list-style-type: none"> ・美しいと感じる構成の中に隠された秘密(構成における美の秩序)を解き明かすことができる。 ・構成における美の秩序について理解することができる。 ・相互評価や構成における美の秩序を基に自らの表現に活かすことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意図する美しい構成について自らの感性を働かせて思考・判断し表すことができる。<想> ・意図する美しい構成に一步でも近づけるための方法について思考・判断し、自らの考えや意見を発表することができる。<関><想> ・構成における美の秩序について理解することができる。<鑑> ・相互評価や構成における美の秩序を基に自らの表現に活かすことができる。<技>
第2時 1.0	構成における美の秩序(要素)について理解した上で、それらを活用しながら直線や曲線を使って美しいと感じる画面を分割し構成する。	構成における美の秩序(要素)を活用しながら、直線や曲線を使って美しいと感じる画面を分割し構成することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・構成における美の秩序を活用しながら、直線や曲線を使って、美しいと感じる画面について構想を練ることができる。<想> ・構成における美の秩序(要素)を活用しながら、直線や曲線を使って美しいと感じる画面を分割し構成することができる。<技>
第3時 0.5	自らの感性を働かせて構成した画面に色の感情や配色の効果を考えながら、意図に合った配色計画を立てる。	自らの感性を働かせて構成した画面に色の感情や配色の効果を考えながら、意図に合った配色計画を立てることができる。	形や色彩の性質やそれらがもたらす感情を基に、意図に合った配色計画を立てることができる。<想>
第4時 2.5	配色計画を基に、ポスターカラーを使って彩色をする。	配色計画を基に、ポスターカラーを使って彩色をすることができる。	ポスターカラーの扱いや彩色の手順を理解し、色むらやはみ出しのない美しい彩色をすることができる。<技>

※<関>: 美術への関心・意欲・態度、<想>: 発想や構想の能力、<技>: 創造的な技能、<鑑>: 鑑賞の能力を示す。

6 本時について

(1) 主題 どうしたら意図する美しさが表現できるのか考えてみよう

(2) 目標、パフォーマンス課題、ルーブリック

<目標及びパフォーマンス課題>

指導目標	①美しいと感じる構成の中に隠された秘密（構成における美の秩序）を解き明かそうとしている。 ②相互評価や構成における美の秩序を基に、自らの表現に活かそうとしている。	
	評 価 目 標	評 価 方 法
自分の意図する美しい構成について自らの感性を働かせて思考・判断し表そうとしている。<想>		◎「パフォーマンス課題」 「どうしたら意図する美しさが表現できるのか考えてみよう」 ・相互評価の中で、自らの構成についてプレゼンテーションをするとともに、美しい構成に一步でも近づけるための具体的な方法について、考えや意見を交流し合い、自らの表現に活かす。
意図する美しい構成に一步でも近づけるための方法について思考・判断し、自らの考えや意見を発表しようとしている。<関><想>		
構成における美の秩序について理解する。<鑑> 相互評価や構成における美の秩序を基に、自らの表現に活かす。<技>		

※<関>：美術への関心・意欲・態度、<想>：発想や構想の能力、<技>：創造的な技能、<鑑>：鑑賞の能力を示す。

<ルーブリック>

学習活動	評価項目	評価する活動資料	ルーブリック		
			A	B	C
各自の構成に対する自己評価の記入	<想>	自己評価 各自の構成A 学習プリント	美しいと感じる構成について、自らの感性をよりどころに、その意図を具体的に記入できる。	美しいと感じる構成について、その意図を記入できる。	美しいと感じる構成について、その意図を記入できない。
意図する美しい構成に近づけるための方法についてのプレゼンテーション	<関> <想>	プレゼンテーション（相互評価） 学習プリント	互いの作品を鑑賞し合う中で、美しい構成に近づけるための具体的な方法について自らの考えや意見を交流することができる。	互いの作品を鑑賞し合う中で、意図する美しい構成に近づけるための方法について気づくことができる。	意図する美しい構成に近づけるための方法がわからない。
構成における美の秩序の理解	<鑑>	自己評価 表現と鑑賞 学習プリント	自らの表現の中に構成における美の秩序を見つけ出し、理解することができる。	構成における美の秩序について理解することができる。	構成における美の秩序について理解するができない。
相互評価や構成における美の秩序の活用	<技>	自己評価 各自の構成B 学習プリント	相互評価や構成における美の秩序を基に、自らの感性を働かせながら表現に活かすことができる。	構成における美の秩序を自らの表現に活かすことができる。	構成における美の秩序を自らの表現に活かすことできない。

※<関>：美術への関心・意欲・態度、<想>：発想や構想の能力、<技>：創造的な技能、<鑑>：鑑賞の能力を示す。

(3) 本時の構想

生徒達は、表現や鑑賞の学習を通して美しいと感じる作品に数多く出会っている。しかし、それらの作品が、なぜ美しいのかという疑問に対して、自分なりの考えや意見をもって答えられる生徒は数少ない。今回の学習指導要領の改訂に新たな項目として新設された〔共通事項〕の中には、「表現及び鑑賞の活動を通して、形や色彩、材料などの性質や、それらがもたらす感情を理解したり、対象のイメージをとらえたりするなどの資質や能力が十分に育成されるようにする」ことが掲げられている。

このことを受けて本時は、これまでの生活経験や既習事項をよりどころに、構成の美しさについてパフォーマンス課題（相互評価）を通して思考・判断し、その美しさの中に隠された秘密（構成における美の秩序）を解き明かすとともに、それらの秩序を自らの表現に活用することを目指している。

(4) 展 開

段階	学 習 内 容	学 習 活 動	時 間	◎留意点 ◆資料 ☆評価
導 入	○学習の意欲化	1 自分の意図する美しい構成について 自らの感性を働かせて思考・判断し 表す。	15	◆色紙セット・のり・台紙A ◎色紙を何の意図もなくバラバラに並べたのでは、 美しさにつながらないことに気づかせ、本時の 「問い」について把握させたい。 ☆美しいと感じる構成について、その意図を記入 できる。 ◎各自の構成が意図に合ったものであるのかとい う疑問を投げかけ、学習課題につなげたい。
	○学習内容の確認	2 本時の学習課題を確認する。		
<p>どうしたら意図する美しさが表現できるのか考えてみよう</p>				
展 開	○学習課題の追究 ＜パフォーマンス課題＞	3 各グループ毎に互いの構成に対して 批評し合う。(相互評価) ・具体的にどこをどのようにしたら、 今以上に美しいと感じる構成にす ることができるのか意見を交流す る	15	◆各自の構成作品 (台紙A)・学習プリント ◆テレビ・拡大提示装置 ☆互いの構成についてそのよさを認め合うととも に個々の意図する美しい構成に一歩でも近づけ るための方法について思考・判断し、自らの考 えや意見を発表することができる。
	○課題追究の振り返り	4 これまでの学習を振り返りながら、 資料集を参考に構成による美の秩序 について理解する。	5	◆資料集・各自の構成作品 (台紙A) ◎構成における秩序を自らの感性を働かせて解き 明かしたことを意識付けたい。 ☆構成における美の秩序について理解することが できる。
	○学習内容の活用	5 相互評価や資料集の構成の美の秩序 を基に、自らの構成に工夫を加えな がら台紙に表す。	10	◆色紙セット・のり・台紙B ☆相互評価や資料集の構成の美の秩序を基に、自 らの意図した構成に近づけることができる。 ◎他者の考えや意見をそのまま受け入れるのでは なく、自らの意図に合った工夫点を取り入れる ことができるよう配慮したい。
終 結	○まとめ ○次時の予告	6 今日の学習を振り返りながら、ルー ブリックを用いて自己評価する。	5	◆学習プリント (ルーブリックを含む) ☆ルーブリックを基に、自己評価することができ る。